

# 【体育科】

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証・評価

- 運動に苦手意識がある児童も楽しく取り組めるように、運動の日常化やスモールステップで取り組める手だてを考えるなど、意欲を高める工夫を行った。その中でも、持久走カードや縄跳びカード、鉄棒カードなどは活動意欲の高まりにつながっていた。
- ボール運動では、シャトル投げ、ジャイロスロー等をたて割り活動を通して実施したことで、全ての児童に投げる機会を与えることができた。
- △その一方で、ボール操作の技能の向上やより望ましい児童相互の関わりについての指導は改善する必要がある。
- 持久走タイムや駅伝の朝練習、持久走練習に、意欲的に取り組む児童が非常に多かった。駅伝大会や体力テストの結果からも練習の成果が見られた。また、苦手な児童も自分なりの目標をもって活動に取り組んでいた。
- 体力、食事、休養、睡眠の大切さについて児童への指導を図るとともに、保護者会などで情報提供をしたことで、児童の実態や意識の共有を図ることができた。

## 2 学習状況の分析と課題

	関心・意欲・態度	運動や健康安全への思考・判断	運動の技能	健康安全についての知識・理解
学習状況の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しみながら運動する児童と、運動に消極的な児童の二極化が激しい。</li> <li>・健康面では、食が細い児童、食べるのに時間を要する児童などいるが、食べようと努力している。やせ形の児童が女子を中心に多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム力を効果的に高めるための工夫や作戦などを考えることができています。</li> <li>・運動に関しては、技能を高めようと、練習の仕方を工夫することには個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボール操作やボールを投げる経験が足りない。ソフトボール投げの記録からも、経年で記録の伸びが見られない。</li> <li>・泳ぐことへの意欲をもち、各学年に応じた技能がしっかりと身に付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康な生活や安全については、ほとんどの児童が理解できている。</li> <li>・睡眠時間が少ない児童が高学年になるにつれ増加している。特に就寝時間が遅い傾向にある。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動に苦手意識がある児童も楽しく取り組めるように、運動の日常化やスモールステップで取り組める手だてを考えるなど、意欲を高める必要がある。</li> <li>・器械運動や陸上運動など個人種目になると児童によっては消極的になることを改善させるため、グループで仲間の考えや取組を認め合う活動を促す必要がある。また、ICT機器や技能ポイントを明確にした資料を提示することで、運動の知識・技能を高められるように取り組む。</li> </ul>			

## 3 授業の具体的な改善策

教科目標	<p><b>新学習指導要領の教科の目標</b></p> <p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康の保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。</p>
全体	<p><b>主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</b></p> <p>指導方法を工夫して必要な知識及び技能の習得を図りながら、児童たちの思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追究し、必要な学習環境を積極的に設定していく。</p>
<b>学年段階別改善策</b>	
低学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぜひああんりたい。」という自分の目標とする姿を明確にもたせるために、教員の例示やICTを活用した手本となる動きを見せることで、何事にもチャレンジする気持ちをもたせるよう働きかける。</li> <li>・親しみやすい教材や鬼遊び等を積極的に取り入れることで、休み時間や放課後にも児童が取り組めるようにする。</li> <li>・運動を苦手とする児童も抵抗感なく取り組めるような指導や学習カードの工夫を行い、できた満足感が得られるような見通しをもてる運動を行う。</li> </ul>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードについては、授業後に振り返り、次時への活動意欲が継続するような工夫をする。</li> <li>・1時間毎のめあてを明確にして運動ができるようにする。また、活動や運動の段階を児童にはっきりと分かるように提示する。</li> <li>・健康な生活ができるように、学校から情報を発信し、家庭と連携を図り協力を仰ぐ。</li> </ul>
高学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームをする際、練習の仕方や作戦などをグループで話し合う時間を十分に確保し、取組に対して適切に価値付けをする。また、児童の実態に応じて、ゲームのルールを簡素化したり、工夫したりすることで、一人一人の運動の機会を保障する。</li> <li>・各学級で体育の授業の導入で、主運動につながる補助運動を取り入れる。毎時間、補助運動を取り入れることで児童に獲得させたい動きが自然と身に付くように仕向ける。</li> <li>・体力、食事、睡眠の乱れが見られるため、必要に応じて個別に面談をする。また保護者会等で話題にし、家庭との連携を図る。</li> </ul>